

# 少子化対策に思う

## 個人的にお答えください。

1 現在、子どもの出生率が低下しています。そのことが、将来、国民年金や介護保険制度に大きく影響してきます。このことを、どのようにお考えですか。また、なぜ子どもが少子化が始まったとお考えですか。

少子、高齢現象がいちじるしいわけですが社会保障制度の基本は、相互扶助ですので自分のおじいさん、おばあさんがサービスを受ける分を納めるという気持ちで保険料を納付していただきたいと思います。

少子化現象については、世の中が最近まで子どもたちへの高学歴化があたりまえとなり、子ども一人ひとりに掛ける負担が増大しているのも一つの要因であると思います。核家族化も考えられます。

今の社会の要求は、学歴よりも個性が重視され始めていると思います。

## 保健福祉課長としてお答えください。

2 少子化対策について取り組みなど具体的におしえてください。

少子化対策の取り組みについては、村では現在、独自の施策として第三子誕生に際して、育児祝い金として十二年度から十



藤島拓朗保健福祉課長

万円を保護者の方に支給しています。十三年度から児童館入園前の幼児の預かり保育、若いお母さん方へのサークル活動の援助など行っていますが、これからも皆さんのご意見をお聞きしながら少子化対策など、進めていきたいと思っています。

0～3歳までの子どもが病院で受診すると、村で助成してくれる制度がありますが、実際3歳になると初診時の一部負担金や体の弱い子など毎月病院通いをしますので、その病院ごとに初診時支払をしなければならなくなります。すると、本人の負担する部分が多くなってきます。

見直してよい部分があるのではないかと思っています。例えば、大野村などでは助成対象を0～6歳まで引き上げたりしています。それを考えると、子どもが少ない普代村こそ公園、児童館をつくるばかりでなく、医療制度そのものを考え直して子育てしやすい環境づくりや、育児支援に力を入れるべきだと思っています。

少子化対策というのであれば、村で取り組んでいる乳幼児等医療費助成事業制度を



子どもは宝です

## 取材を終えて

少子化問題は、ただの人口問題ではないのです。このことによって将来、国民年金や介護保険制度に大きく影響してくるからです。今、大きな社会問題となっている市町村合併推進も同様です。少なからず影響がでてくるものと考えられます。わが普代村も例外ではなく、市町村合併についてはさまざまな角度から穏やかならぬ心情でいることは確かです。

避けて通れぬ問題ならば住民として真っ正面からしっかりと見つめ、考えなければならぬと感じました。

少子化に歯止めがかからず、人口流出が進んでいったとしたら、村の存続そのものが危ぶまれるからです。

本音で語り、取材に快く応じてくれた村民の皆さんがいらっしゃる一方、思っていることを言葉にできない方々がいらっしゃることも肌で感じました。

最後に取材で多大なるご協力をいただきました村民の皆さんに心から感謝し、村に少子化が及ぼす影響を考えていただく切っ掛けになればこれ以上のことはありません。